

第50回 北陸・近畿・東海ブロック合同 障害児教育学習会

福井県
開催!



「ともに学び、ともに育つ」
地域と学校づくりをすすめるために



清水聡教授による記念講演

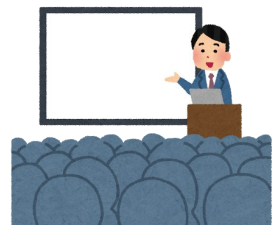
7月29日(金)・30日(土)の両日、福井県において障害児教育学習会が開催され、本県から36名の先生方が参加しました。

全体会では、まず日教組障害児教育部の下坂千代子さんから、次期学習指導要領改訂にむけての「特別支援教育部会における議論の取りまとめ(案)」「高校における通級指導」について等の情勢報告がありました。次に、「発達障がい子どもたちが学校でうまくやっていくために必要なこと～正しい理解に基づく合理的配慮～」という演題で、福井県立大学学術教養センターの清水聡教授による記念講演が行われました。その中で、通常学級に所属することが多い、知的発達に遅れのない発達障がい

児への適切な対応を考えるには、正しい理解が必要であることや、特性に合わせた適切な対応を組み立てるのが常套手段であるが、本人のスキルアップを望むだけでは限界があるので周囲の配慮が必須であること等を話されました。最後に、学校適応だけが目標ではないとし、学年が進むに連れて集団適応度は上がるが受動型では就労の時つまずくので、就労を見据えて学校では何を教えるべきか考えなければならぬとまとめられました。

その後、4つの分科会で各府県の実践発表及び研究会が行われ、どの分科会も熱心な討論がなされました。

夜の交流会では他県の参加者と情報交換を行い、和やかな食事会となりました。



＜参加者の感想＞

- 講演から、発達障がいのある生徒に対して正しく理解し適切な配慮をしていくことが大事であることを改めて確認することができた。
- 保護者が地域の学校を選ぶということは、地域で生きていくということで、保護者がいかに地域子どもたちと交わることを願っているかを痛感した。本人だけでなく交流の子どもたちをいかに育てるかも視野に入れた指導をすることが大切だと思った。
- 取り組みに多少の違いはあっても、分科会の共通点は「ともに生きる」ということであつたと思う。特別な教育をしなくても、地域仲間の中で生きていく力をつけていくことが大切であると実感した。
- 意見をかわす中で、先生方子どもに対する熱意が伝わり、自分はどうかあるべきかをじっくりと考えるよい機会となった。現状を知り、インクルーシブに向けてのこれからについて意見を交流する場は大切だと感じた。

